

国語科	論理国語	3単位
2学年	人間経済コース	

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質、能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- ②論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 授業内容

- (1) 近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章を読み、内容や構成、論の展開などを捉え、要旨を把握できるようにする。
- (2) 必要に応じて、翻訳の文章や古典における論理的な文章など、複数の文章を読み比べ、それらを比較して論じたり批評できるようにする。
- (3) 副教材「新国語便覧」を使うことによって、作者や作品の背景から迫る多角的読解を目指す。
- (4) 副教材「精選論理国語 学習課題ノート」を用いた演習を行い、学習内容を定着させる。

3. 評価

- (1) 前期・後期の評価は、中間考査・期末考査・小テストなどの結果、問題演習への取り組み方、授業中における発表・話し合いなどの発表内容・参加状況、振り返りをしながら学びに向かう姿勢など、統合して判断する。【主体的に学習に取り組む態度】
- (2) 年間の評価は、前期・後期の成績を統合して行い、さらに下記の観点を加えるものとする。
 - ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。【知識及び技能】
 - ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握できる。【思考力・判断力・表現力等】
 - ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理をして、目的や糸に応じた適切な題材を決めることができる。【思考力・判断力・表現力等】

4. 使用教科書

教科書	東京書籍	「精選論理国語」
副教材	第一学習社	「カラー版 新国語便覧」
	東京書籍	「精選論理国語 学習課題ノート」
	桐原書店	「高校生必修語彙ノート 新課程版」
	第一学習社	「新版 チャレンジ常用漢字 漢検級別対応」

5. 小テスト実施計画 「チャレンジ常用漢字」前期3回、後期3回

	4, 5月	6, 7月	8, 9月
範囲	3級	3級	3級
	P46～53	P54～61	P62～69
	10, 11月	12, 1月	2, 3月
範囲	準2級	準2級	準2級
	P70～77	P78～85	P86～97

6. 探求学習

- ・関心を持った事柄について様々な資料を集め、調べたことを整理して、様々な観点から自分の意見や考えを論述する。
- ・生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深める。

※全コース共通夏季休業課題：「読書体験記」

7. <年間計画>

月	授 業 内 容	備 考
4	オリエンテーション <読 書> 「いつもそばには本があった」 國分功一郎	「チャレンジ常用漢字」小テストは進度やクラスの状況に応じて、適宜実施する。 副教材「高校生必修語彙ノート 新課程版」を使用し、論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語彙を豊かにする。 <読書体験記指導>に関わらず、年間を通じて生涯にわたって読書に親しみ、自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めさせるため、翻訳の文章や古典における論理的な文章、または文学的な文章など、複数の文章を読み比べ、それらを論じたり、批評できるようにする。 また関心をもった事柄について様々な文章を調べ、その成果を発表したり報告書や短い論文などにまとめたりする活動も実施する。
5	<芸 術> 「ミロのヴィーナス」 清岡卓行 前期中間考査	
6	<論理の力> 論理とはなにか ① つなげる力 <科 学> 「科学的『発見』とは」 小川眞里子	
7	前期期末考査	
8	<読書体験記指導> 【夏季休業】	
9	<論理の力> ② 論証する力 ③ 要約する力	
10	<情 報> 「メディアの変容」 土井隆義 <コラム> 文用を読み比べるために	
11	<社 会> 『リスク』と『リスク社会』 神里達博 後期中間考査	
12	<近 代> 『である』ことと『する』こと 丸山真男 【冬季休業】	
1	<論理の力> ④ 質問する力	
2	<芸 術> 「日本人の美意識」 高階秀爾	
3	学年末考査 <メディア> 「地図の創造力」 若林幹夫	

地 歴 科	歴史総合	2 単位
第 2 学 年	人間経済コース	

<授業目標>

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会の中で主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

<授業内容>

1. 近現代の歴史を、世界と其中的の日本という観点から広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わるものとして理解する。
2. 2 単位（年間約60回）の授業で履修可能な範囲を考慮して、教科書の後半に重点を置く。
本授業では、①第一次世界大戦から第二次世界大戦、②戦後の国際社会と日本を対象とする。
3. 講義形式を基本とするが、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるため、発表・論述といった言語活動や視聴覚教材を活用した授業を多目に取り入れる。

<課外や他の授業との関連>

1. 1年次に、公民科の公共（2 単位）を履修した。3年次には、地理総合（2 単位）を履修することになっている。
2. 課外授業（ゼミナール）については、受験科目としての必要性に応じて設定する。

<留意点>

1. 教科書、ノート、資料集は、授業・課外の別なく常に持ってくること。
2. ノート作成、副教材のチェックのために赤ペンやマーカーは必ず携帯すること。
3. 試験問題を含めた配布物は必ず保管すること。

<成績評価>

1. 定期考査・確認テスト・授業態度・ノートや課題の提出状況などを評価の対象とする。
2. 下記の3観点に基づき、総合的に評価を行う。
 - ①知識・技能 …定期考査・確認テスト等で、正確な解答を作成できているか。
歴史的事象の原因とその意義（原因→事象→影響）が意識できているか。
発表や論述において、論理的な表現ができているか。
 - ②思考・判断・表現 …授業中の教師との問答や考査、探究学習の中で、自ら疑問点を見つけ、論理的思考や判断に基づき解決していこうとする姿勢ができているか。
 - ③主体的に学習に取り組む態度 …授業中における講義を聴く態度、ノートへの記載内容の質、
発問に対する回答を行う姿勢がしっかりできているか。

<学習到達度>

1. 定期考査では、60%以上の得点率を目標とする。
2. 単元ごとの小テスト（確認テスト）では、70%以上の得点率を目標とする。

<使用教材>

使用教材	書 名	発 行 所
教科書	わたしたちの歴史 日本から世界へ	山川出版社
副教材	新詳 歴史総合	浜島書店

<年間計画>

月	週	授 業 内 容
4	1	前史 1 (産業革命と市民革命)
	2	前史 2 (アヘン戦争とアロー戦争)
	3	前史 3 (日本の開国と明治維新)
5	4	前史 4 (不平等条約の改正)
	5	前史 5 (日清・日露戦争、韓国併合)
	6	「第一次世界大戦前夜」
	7	前期中間考査
6	8	「第一次世界大戦と日本」
	9	「ロシア革命とその影響」
	10	「社会運動の広がり」
	11	「ヴェルサイユ体制」
	12	「ワシントン体制と日本の動向」
7	13	前期期末考査
	14	「アジアの民族運動」
	15	「大量生産・大量消費社会」
8	夏季休業	
	16	「世界恐慌」
9	17	「慢性的な日本の不況」
	18	「独裁勢力の台頭」
	19	「中華民国による中国統一」
	20	「満州事変と日中戦争」
10	21	「第二次世界大戦前夜」
	22	「第二次世界大戦と日本」
	23	「第二次世界大戦の終結」
	24	「戦後の国際秩序」
11	25	「冷戦の始まり (ヨーロッパ)」
	26	「アジアにおける冷戦」
	27	「日本の戦後改革」
	28	後期中間考査
	29	「日本の独立」
12	30	「第三世界の登場」
	31	「冷戦の固定化と雪どけ」
	32	「冷戦の展開」
	冬季休業	
1	33	「55年体制と安保闘争」
	34	「高度経済成長の光と影」
	35	「ベトナム戦争とアメリカ」
2	36	「経済構造の変化」
	37	「アジアの経済成長」「社会主義の停滞と新自由主義」
	38	「冷戦の終結」「冷戦後の地域紛争」
	39	「地域統合」
3	40	学年末考査
	42	「現代世界の諸課題」
	43	「日本の諸課題」
春季休業		

数学科	数学A（2単位）	2単位
第2学年	商業科 人間経済コース	

（授業目標）

- ・事象を数学的に考察し、処理する能力を高める。
- ・数学的なものの見方や考え方の良さの認識を通して、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用する態度を育てる。
- ・原理・法則の理解を深め、経済・情報系大学進学に向け、幅広い知識や資格を身に付ける基盤作りを行う。

（授業内容）

- ・教科書での基礎基本の理解をより確実にするために、副教材等を使用し、基本問題の反復練習を積極的に行う。
- ・数学的な見方や考え方を理解することで、物事を多方面から分析し、必要な情報を取り入れる能力を養う。

（成績評価）

- ・考查はコース毎に共通問題とする。
- ・成績評価については、コース毎に概ね共通評価とする。考查成績、授業態度、課題の提出状況等を勘案して、総合的に評価する。
- ・表・式・グラフなどを用いて数量の関係を数学的に表現し、自らの考えを他者に伝える活動を総合的に判断する。

数学Aの評価のポイント

〈関心・意欲・態度〉

場合の数と確率、整数の性質または図形の性質の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしているかをワークシートへの取り組みやノートの記述内容等で見える。

〈数学的な見方や考え方〉

事象を数学的に考察し表現したり思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における数学的な見方や考え方を身に付けているかをレポート、質問、小テスト、考查等で見える。

〈数学的な技能〉

場合の数と確率、整数の性質または図形の性質において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けているかを課題テスト、小テスト、考查で見える。

〈知識・理解〉

場合の数と確率、整数の性質または図形の性質における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けているかを生徒同士の相互評価やレポート、質問、小テスト、考查等で見える。

(使用教材)

使用教材	書名	発行所
教科書	新編数学A・サポートブック	第一学習社
副教材	ネオパル数学 A	第一学習社

(3年間の履修展開)

1 学年	2 学年	3 学年
数学 I (3)	数学 A (2)	数学 II (3)

(学習方法)

- ① 高校の授業内容は、「早く・多く・難しい」ということを自覚する。
 - ・中学までは予習などしなくても、授業がわかるケースが多かったのは、授業の展開がゆっくりで覚える内容も少なかったからである。高校で中学とのギャップを感じるだろうが、授業に臨むうえでやはり最低限度の予習をし、予備知識を蓄えておくことが必要となってくる。これは授業を大切にするためにどうしても必要である。

- ② 「受身の姿勢」でなく、自らが積極的に取り組むこと。
 - ・授業においては、黒板で説明を受けただけで出来るようになったと錯覚しがちである。しかし、それは解答の仕方が書いてあるからであって、実際に問題を解くうえでなかなか解答に結びつかない場合が多いのが現状である。その現状を打破し数学が出来るようになるためには、やはり家庭学習における反復練習が必要である。つまり、学習効率を高めるためには、復習が大切な要素となりうる。

- ③ 将来の進路に向けて
 - ・目標をもって努力し続ければ、夢は実現できるものと信じ、高い目的意識を持って問題を解いていこう。解けない問題を解こうとする姿勢が、将来の起業家の原点となる。2年生という中堅学年で学んだことが、3年生の進路選択で大いに役立っていくことだろう。

(数学A)

月	単元名	項目名	授業内容
4	中学数学の復習	中学の復習	中学数学の復習
	第1章 場合の数	場合の数	数え上げの原則
			集合 集合の要素の個数
5			1節確認問題
前期中間考査			
6		順列・組合せ	順列
			色々な順列
前期期末考査			組合せ
7			組合せの利用
夏期休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
9	第2章 確率	確率	事象と確率
			確率の基本性質
			余事象の確率
10		確率	独立試行、反復試行、条件付き確率 共通部分、和集合、集合の要素の個数 第1章の総合問題演習
			探求学習
11	第3章 図形の性質	三角形の性質	角の2等分線
			外心・内心・重心
		円の性質	円周角の定理
			円に内接する四角形
後期中間考査			
12		円の性質	円の接線、 方べきの定理
冬季休業中課外 既習事項の総復習や応用問題など			
1		空間図形	空間図形 第2章の総合問題演習
			第4章 数学と人間の活動
2		ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法、2元1次不定方程式
		記数法	古代の記数法、現代の記数法
		座標の考え方	平面・空間上の点の位置
学年末考査			
3		身近な数学	ゲーム・パズルの中の数学
学年末休業中課外 数学I・Aの総復習及び総合演習			

理科	生物基礎	2単位
第2学年	人間経済コース	

【授業目標】（文部科学省「高等学校 学習指導要領 平成30年告示」）

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

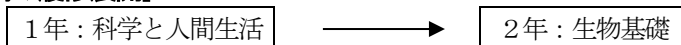
【授業内容】

- (1) 観察、実験などの体験的な学習活動を充実させる。その際、話し合い、レポートの作成、発表を行う。
- (2) 観察と実験を通じた探究活動を行い、それに基づいて学習を進める。探究活動を通して、科学的な見方・考え方の育成を図る。
- (3) 科学やそれを応用した技術と日常生活のつながりを強調する。また、学習内容と職業等の関連性に触れ、学びの意欲を高める。
- (4) ICT機器を活用し、授業内での考察過程の共有や配信された動画の視聴、課題に取り組む。
- (5) 授業は図を使って説明することが多い。特徴をとらえた図を描くことに心掛けたい。色分けして示すのも一つの方法である。また、動画を視聴することで、現象をより深くイメージする。

【到達度】

定期考査の他に、各節終了時に確認テストを実施する。テストにおいて概ね80%の得点が当該節の到達目標である。これにより学習内容の確認・定着をはかる。

【3年間の履修展開】



生物基礎(2単位)：

- ・顕微鏡の使い方を確認し、マイクロメーターを用いて細胞の大きさを計算できるようにする。
- ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解させる。
- ・細胞の構造と細胞小器官の働きを学習し、生命活動の基本について学ぶ。
- ・呼吸や光合成の基本的なしくみを理解する。
- ・DNAの構造とタンパク質合成のしくみを学ぶ。また、遺伝暗号表からアミノ酸配列を求められるようにする。
- ・内分泌系と自律神経系の働きを学び、自らのからだについて興味を持つ。
- ・免疫の種類やしくみを学び、実際の生活で活用されている治療方法に結び付ける。
- ・環境と生態系のバランスについて考え、環境問題や生態系の破壊に関する意識を高める。

【成績評価】

成績の評価は、定期考査、確認テスト等による理解度及び到達度の評価と、観察・実験活動への取り組み及び結果の考察やレポート、発表等の評価を、「3観点」に基づく観点別評価で総合的に判断し、5段階に評定する。

「3観点」： ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度

なお、定期考査は上記の観点①②に基づく出題をする。

【使用教材】

教材名	書名	発行所
教科書	新編 生物基礎	数研出版
資料集	新課程版 スクエア 最新図説生物	第一学習者
問題集	リードLightノート 生物基礎	数研出版

<年間計画>

月	週	授 業 内 容		観点別学習と重点項目	
4	1	序章 生命の探求	1. 探究活動の進め方		
	2		2. 顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	【実験】 顕微鏡の使い方	①③
	3	第1章 生物の特徴	第1節 生物の多様性と共通性	【実験】 細胞の観察	①②③
5	4		生物の多様性と共通性の由来		②
	5		共通性としての細胞		②
	6		第2節 エネルギーと代謝		①③
	7	前期中間考査			
6	8		代謝と酵素		②③
	9		第3節 呼吸と光合成		①③
	10		呼吸と光合成		①
	11		ミトコンドリアと葉緑体の起源		②③
	12	第2節 遺伝子とその働き	第1節 遺伝情報とDNA		①③
7	13	前期期末考査			
	14		DNAの構造		③
8	夏季休業				
9	15		第2節 遺伝情報の複製と分配		②③
	16		細胞周期と遺伝情報		①
	17		第3節 遺伝情報の発現		②③
	18		タンパク質合成		①
	19		遺伝子とゲノム		②③
10	20	第3章	第1節 体内での情報伝達と調節		②③
	21	生物の体内環境の維持	動物のからだと恒常性		①
	22		神経系と内分泌系	【演習】 ホルモン分泌の流れ	②③
	23		第2節 体内環境の維持のしくみ		②③
11	24		体内環境の維持	【演習】 酸素解離曲線の見方	①
	25		血糖濃度の調節のしくみ		①
	26	後期中間考査			
	27		血液の循環を維持するしくみ		②
	28		第4節 免疫のはたらき		①
12	29		からだを守るしくみ		①③
	30		自然免疫		①
	31		適応免疫	【資料】 日常生活にある免疫疾患	①②
	冬季休業				
1	32	第4章	第1節 植生と遷移		①③
	33	生物の多様性と生態系	植生の遷移の過程としくみ	【演習】 光 - 光合成曲線の見方	①
	34		第2節 植生の分布とバイオーム		①②
	35		世界のバイオーム		①
2	36		日本のバイオームにおける分布		①
	37		第3節 生態系と生物の多様性		②③
	38		第4節 生態系のバランスと保全		②③
	39		人間の生活と生態系の保全	【思考】 生物多様性について	③
3	40	学年末考査			
	41		生物基礎のまとめ		①③
	42		生物基礎のまとめ		①③

保健体育科	体 育	2 単 位
第 2 学 年	人間経済コース	

【 授業目標 】

1 各種の身体活動を通して運動技能を高める。 2 心身共に健康で、生涯にわたり運動に親しめる方法を学ぶ。

【 授業内容・種目 】

【 集団行動 】… 集団の約束やきまりを守り、機敏かつ的確に行動する。

・ラジオ体操第一（準備体操として通年実施する） ・全体行進、番号のかけ方、列の増減などを行う。

【 ハンドボール 】

・正確にパスをし、正確にキャッチができるようにする。・動きの中でパス、キャッチ、シュートをスムーズに行えるようにする。・ゴールキーパーとの連携、チーム戦術を習得しレベルの高い試合ができるようにする。

【 バスケットボール 】

・基本技術 パス、ドリブル及び正確なシュートを体得する。 ・2対2、3対3のコンビネーションプレーを習得する。

・ゲームを通してバスケットのルール・審判法を身につける。

【 持久走 】

・準備体操後必ず脈拍及び体調のチェックを行う。・ペース走（距離、または決められた時間を自分のペースを守り走る）

・インターバルトレーニング ・レペティショントレーニング

【 ソフトバレー 】

・基本姿勢から場面に応じてそれぞれのパスの球質を使い分ける。 ・ポイントに結びつくような球質のサービスを身につける。

・スパイカーに打ちやすいトスを上げられるようにする。

【 バドミントン 】

・基本となるクリアが正確に打てるようにする。・シングルス、ダブルスのルールを理解し審判ができるようにする。

・応用技術 ドライブ・スマッシュ・ドロップなどの各種ショットが打ち分けられるようにする。

・シングルス、ダブルスそれぞれのルールを理解し、ゲームと審判ができるようにする。

【 柔道（男子） 】

・受け身、投げ技、寝技等1年時の復習を行う。 ・試合を想定して、立ち技から寝技に変化する練習を行う。

・対人技能を高め、得意技を身につける。また得意技を生かした練習や乱取りができるようにする。

【 ソフトテニス（女子） 】

・正しいグリップの方法を習得し、グランドストロークにおけるフォア・バックハンドの基本を

理解し、正確な打ち方を身につける。・ネットプレーにおけるボレーや、決定打ともなるスマッシュを練習する。

【 ダンス（女子） 】

・ダンスを踊るために必要な基礎体力をつける。・テーマに沿って自分の感情や考え方を身体表現としてする力を身につける。

・身体各部の構造を理解し、イメージ通りに動きをコントロールできるようにする。

【 体育理論 】

1 運動技能のしくみとそのとらえ方 2 運動技能の上達

3 運動技能を高める練習のしかた・スポーツをみて考えてみよう 4 運動の計画的な学び方

【 授業の留意点 】

● 見学者は、授業開始前に担当教員の許可を得ること。また、見学中はジャージを着用すること。

● 体育用品、備品は大切に扱うこと。個人のジャージ・シューズ等は大切に管理し、貸し借りをしないこと。

【 成績評価 】

【知識・技能】・各領域、各種目の運動の特性を理解し、運動の技術（技）の名称や行い方等、段階に応じた技能を身につけているか。・スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について理解しているか。

【思考・判断・表現】・効果的な練習方法を理解し、実践しているか。・各種目で戦術、課題解決方法を理解しているか。

【主体的に取り組む態度】・公正、協力、責任などの態度を身につけているか。

・健康、安全に留意して自ら率先して楽しみながら運動しようとしているか。

以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）などから総合的に判断する。

＜ 年間計画 ＞

月	授 業 内 容		
	男 子	女 子	
4	【集団行動】 ・集合隊形 列の整頓 開列 番号 ・列の増減 方向変換 行進 駆け足・ラジオ体操第一		【ダンス】 隔週1単位通年で実施。 ○ダンスを踊るために必要な簡単な動きを作り、イメージを持ったひと流れの動きを作る。
5	【柔道】 ・単元の説明および礼法	【ソフトテニス】 ・単元の説明 ・ラケットの握り方	
前 期 中 間 考 査			○ダンスを踊るために必要な簡単な動きを作り、イメージを持ったひと流れの動きを作る。
6	・受け身 前受け身 後ろ受け身 横受け身 前回り受け身 ・立ち技 打ち込み・投げ込み ・約束練習 乱取り ・試合および審判法	・ラケットを使ったボールゲーム ・基本的な打法 ①グラウンドストローク ②ボレー ③スマッシュ ④サーブ ⑤ゲーム (シングルス・ダブルス)	
7	【ハンドボール】 ・単元の説明・キャッチボールとパス ・シュート練習 ジャンプシュート ステップシュート	【バスケットボール】 ・単元の説明 ・パス練習 ・ドリブル練習 ・動きの中でのパス ・ドリブル コンビプレー	・いくつかの動きの連続をリズムカルに踊る。 ・与えられたイメージを動きに置き換える。
前 期 末 考 査			
【体育理論】 1 運動技能のしくみとそのとらえ方 2 運動技能の上達			
夏 季 休 業			
8	3 運動技能を高める練習のしかた・スポーツをみて考えてみよう 4 運動の計画的な学び方		
9	・オフENSE カット・クロス・ブロックプレー ・ディフェンス フットワーク シュートカット ・ゴールキーピング ・試合および審判法	・ドリブルシュート、ジャンプシュート ・スリーオンスリー ・ゲームと審判法	・音からイメージを引き出し、動きに置き換える。 ・色からイメージを引き出し、動きに置き換える。
10	【ソフトバレー】 ・単元の説明 ・パス練習 直上トス オーバーハンドパス アンダーハンドパス ・スパイクとブロック	【バドミントン】 ・単元の説明 ・グリップとフットワーク ・クリアの打ち方 ・各種ショットとサーブ	
11	・サーブとサーブレシーブ ・試合および審判法	・試合および審判法 (シングルス・ダブルス)	
後 期 中 間 考 査			
12	【持久走】 ・単元の説明 脈拍チェックと体調管理 ・ウォームアップ ストレッチング ・ペース走	【持久走】 ・単元の説明 脈拍チェックと体調管理 ・ウォームアップ ストレッチング ・ペース走	・グルーピング ・テーマ設定
冬 季 休 業			
1	・インターバルトレーニング ・レペティショントレーニング ・校内記録会実施	・インターバルトレーニング ・レペティショントレーニング ・校内記録会実施	・運動課題、イメージ課題を手がかりにして、作り出した動きをダイナミックに表現する。
2	【フットサル】 ・単元の説明 ・基本技術 リフティング ドリブル キック トラッピング	【卓球】 ・単元の説明 ・ラケットの使い方 グリップ ・ラリー ドライブとカット フォアとバック	
学 年 末 考 査			
3	・シュートとコンビネーション ・ゲームと審判法	・サーブ ・ゲームと審判法	
学 年 末 休 業			

保健体育科	保 健	1 単位
第 2 学年	人間経済コース	

【 授業目標 】

高等学校で「保健」を学ぶ目的は、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことである。本校の保健授業では、健康・安全、運動・体力について理解を深め、将来にわたってよりよく生きるために、一人ひとりが健康な生活や、健全な行動の仕方について主体的に学び、考え、判断し、責任ある意志決定ができるように様々な方法を理解させ、育成することを目標とする。

【 授業内容 】

「保健」編の学習内容は、現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康の3単元からなる。2年次では生涯を通じる健康と健康を支える環境づくりについて学習する。

【2年間の履修展開】

1年 第1章 現代社会と健康

時代の流れの中で、健康自体のとらえ方や健康のために個人や社会に求められていることも変化している。生活習慣病、薬物乱用、精神疾患などを中心に現代の健康問題や健康の考え方について学習する。

第2章 安全な社会生活

安全は誰もが享受すべきものであり、そのためには交通事故や自然災害、犯罪への備えと、応急手当に関する知識と技能が必要である。仮に被害が出ても最小限にとどめることができるよう、安全な社会づくりについて学習する。

2年 第3章 生涯を通じる健康 第4章 健康を支える環境づくり

思春期と性の問題、職業と余暇活動の関係、さらに自然環境や食品に関する環境問題の現状などについて学習する。1年次では個人の健康問題が中心であったが、2年次では我々をとりまく、さまざまな健康の問題について多角的に考えていく。

【授業方法】

基本的には教科書を中心とした講義形式であるが、視聴覚教材を積極的に活用する。また、グループワークなど対話を含む学習をする。

【成績評価】

【知識・技能】 それぞれの単元について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解しているか。

【思考・判断・表現】 それぞれの単元について、課題の解決のために考え、判断し、それらを表現することができるか。

【主体的に取り組む態度】 自身の健康や社会生活について関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。以上の点を踏まえ、授業への取り組み（授業態度や学習活動への参加状況）、定期考査による理解度や学習到達度、課題の提出状況から総合的に判断する。

【使用する教材】

教材名	書名	発行所
教科書	現代高等保健体育	大修館書店
副教材	現代高等保健体育パワーポイントスライド集 (Chromebook を使用しロイロノートにて活用)	大修館書店

〈年間計画〉

月	授 業 内 容
4	○ 授業ガイダンス 【3章 生涯を通じる健康】 1 ライフステージと健康
5	2 思春期と健康 前 期 中 間 考 査
6	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 ◎テーマ学習 「性教育について考えてみよう」・「それは本当に正しい避妊法ですか」 6 結婚生活と健康
7	前 期 期 末 考 査 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康
8	夏 季 休 業
9	10 健康的な職業生活 ◎テーマ学習 仕事を健康の視点から考えてみよう 【4章 健康を支える環境づくり】 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康
10	3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 ◎テーマ学習 過去の公害を振り返ってみよう
11	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 後 期 中 間 考 査 ◎テーマ学習 「健康食品などの広告を分析してみよう」・「栄養素や食品のブームについて考えてみよう」
12	7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 ◎テーマ学習 「医療機関のかかり方について考えてみよう」・「サリドマイド薬害に学ぶ」
1	冬 季 休 業 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加
2	◎テーマ学習 「あなたは健康情報を正しく判断していますか」・「健康政策を考えてみよう」
3	学 年 末 考 査 ◎ DVD 視聴学習 学 年 末 休 業

英語科	英語コミュニケーションⅡ	4単位
2学年	人間経済コース	

<授業目標>

1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。
2. 1年次で学習した基本的な知識をさらに深く掘り下げるとともに、それらを英文読解の中で活かす能力を養う。
3. 英文構造を正しく把握するための語彙力の増強をはかる。
4. 大学入学共通テストにおけるリスニング対策として、新出単語を正確に発音し、正確に聞き取れる力を養う。
5. 全商英語検定2級及び実用英語技能検定準2級取得を目指す。

<授業内容>

1. 英語の語順に沿って意味を的確につかむよう、意味のまとまりごとに区切りを入れて読むスラッシュリーディング、段落ごとの大意をつかむパラグラフリーディングなどを取り入れてテキストを読む。文法、文などにも留意しながら読み、文の構造を学ぶ精読と、教材等を利用し、出来るだけ多くの英文を読んで、英語に触れる機会を多くするための多読や繰り返しの音読を行う。
2. 語彙を増やすために副教材を利用して、英単語、熟語に関する小テストを行う。
3. 理解度に合わせて、文法、語法、構文に関する問題演習などを補足的に行う。

<使用教材>

教材名	書名	出版社
教科書	Power On English Communication II	東京書籍
副教材	英単語ターゲット 1200	旺文社
	スタディサプリ English	リクルート

<成績評価>

評価の観点			
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・英文の内容に関心を持ち、積極的に理解することができる。 ・周囲と積極的に英語で意見交換をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を、学習事項を用いて英文で再現することができる。 ・内容に関して、感想や意見を伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容についての質問に英語で答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項を理解し、適切に使用することができる。 ・意味の区切りを意識し、相手が理解しやすいように音読することができる。

<3年間の履修展開>

1年次:英語コミュニケーションⅠ
↓
2年次:英語コミュニケーションⅡ
↓
3年次:英語コミュニケーションⅡ

<探求学習> 随時実施予定

<年間計画>

月	週	学習内容
4	1	英文法復習
	2	Lesson 1 Play Me, I'm Yours ストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて読み取る
	3	Lesson 1 Play Me, I'm Yours ストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて読み取る
5	4	Lesson 1 Play Me, I'm Yours ストリートピアノが設置された経緯について、わかりやすく紹介する
	5	英語活用力 Up コーナー 英語で注文
	6	英作文演習
	7	前期中間考査
	8	Lesson 2 Ethical Fashion ファストファッションとエシカルファッションについて読み取る
6	9	Lesson 2 Ethical Fashion ファストファッションとエシカルファッションについて読み取る
	10	Lesson 2 Ethical Fashion 好きなファッションブランドのエシカルな活動について、発表する
	11	Enjoy ドリル 英文法 いろいろな文
	12	Enjoy ドリル 英文法 いろいろな文
7	13	前期期末考査
	14	英語活用力 Up コーナー スキミング
	15	英作文演習
8	夏季休業	
	16	Enjoy ドリル 英文法 進行形
9	17	Enjoy ドリル 英文法 進行形
	18	Enjoy ドリル 英文法 進行形
	19	Zoom in with コーパス インターネットはコーパス
	20	Enjoy ドリル 英文法 未来表現と助動詞
10	21	Enjoy ドリル 英文法 未来表現と助動詞
	22	Lesson 3 One for All, All for One ラグビー選手であるリーチ選手のインタビューを読み取る
	23	Lesson 3 One for All, All for One インタビューしたい有名人について調べ、インタビュー番組を作る
	24	Lesson 3 One for All, All for One インタビューしたい有名人について調べ、インタビュー番組を作る
11	25	Enjoy ドリル 英文法 未来表現と助動詞
	26	Enjoy ドリル 英文法 未来表現と助動詞
	27	Lesson 4 Vending Machines 海外のユニークな自動販売機について調べ、自分の意見を交えて発表する
	28	後期中間考査
12	29	Lesson 4 Vending Machines 海外のユニークな自動販売機について調べ、自分の意見を交えて発表する
	30	Lesson 4 Vending Machines 海外のユニークな自動販売機について調べ、自分の意見を交えて発表する
	31	Enjoy ドリル 英文法 現在完了
	32	Enjoy ドリル 英文法 現在完了
冬季休業		
1	33	Summer Reading Going Home
	34	Summer Reading Going Home
	35	Enjoy ドリル 英文法 受動態
	36	Enjoy ドリル 英文法 受動態
2	37	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ブレイルノイエについて読み取る
	38	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ブレイルノイエの利点と活用方法について考えて発表する
	39	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ブレイルノイエの利点と活用方法について考えて発表する
3	40	学年末考査
	41	Appendices 文法のまとめ
	42	Appendices Tool Box Plus

家庭科	家庭基礎	2単位
第2学年	人間経済 コース	

※家庭科の学習目的

家庭科の目的は、みなさんが健康で、安全に、快適な毎日を過ごすために必要な知識や技術を身につけ、それを実際に役立てることで、より心地よい生活を作り出すことにあります。生活の心地よさは、一人ひとり違ってきます。家庭科で学ぶ知識や技術は、心地よさの基本となるものです。これを通じて自分の人生観を見通し、将来必要になるであろう親や高齢者としての自分の役割についても学びます。

周囲の人たちにも思いをはせ、ともに生きる知識・技術を身につけていきましょう！

< 授業内容 >

- ①3章 食生活 P58～
- ②1章 消費生活・環境 P4～
- ③8章 青年期・家族 P184～
- ④7章 共生社会 P176～
- ⑤5章 子どもの保育 P134～
- ⑥6章 高齢期の生活 P160～
- ⑦4章 住生活 P114～

※年間3回の調理実習と基礎縫いの被服実習を実施。

視聴覚教材を用いた授業や時事問題を取り上げた授業も随時展開する。

< 留意点 >

- ①教科書・資料集・ノート・タブレットは常に持参すること。
- ②ノートは定期的に提出すること。配布されたプリントは、すべて貼付する。
- ③課題等の提出期限は、必ず厳守すること。
- ④調理実習の際は、エプロンを持参すること。
- ⑤被服実習の際は、針山やはさみを用意すること。

< 成績評価規準（3観点別） >

「知識・技能」としては基本的な調理技能と裁縫技術・提出物・定期考査（知識・技能）結果を、「思考・判断・表現」としては時事問題および視聴覚教材への意見・感想・作品の自己評価・定期考査（思考・判断・表現）結果を、「主体的に学習に取り組む態度」としては提出物・出席状況・学習意欲・授業態度等を、評価の基準とし、総合的に評価する。

ノート等の提出物は、A～Dの4段階評価（Dは再提出もしくは評価なしとする）。

考査結果については、学校の基準をふまえて評価。

調理技能や裁縫技術については、積極性・取り組み・手際の良さ・仕上がりなどを総合評価し、A～Dの4段階評価（Dは再提出もしくは評価なしとする）。

< 使用教材 >

教材名	書名	発行所
教科書	Survive!!	教育図書
副教材	家庭科55デジタル+	教育図書

<年間計画>

月	週	分野	単 元	
4	1	食物	14. 人と食生活【がんばった自分にご褒美だ！】	P58 ~ 59
	2		15. 食品と栄養素（エネルギー）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P60 ~ 61
	3		15. 食品と栄養素（炭水化物）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P62 ~ 63
5	4	食物	15. 食品と栄養素（脂質）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P64 ~ 65
	5		15. 食品と栄養素（たんぱく質）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P66 ~ 67
	6		18. 調理の基礎・調理実習1・被服実習の計画【タロウ君のカレーは？】	P84 ~ 87
	7	前期中間考査		
6	8	食物	※調理実習1／被服実習（刺し子）A	
	9		※調理実習1／被服実習（刺し子）B	
	10	被服	15. 食品と栄養素（無機質）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P68
	11		15. 食品と栄養素（ビタミン）【ご飯は炭水化物でしょ！？】	P69
	12		16. 生鮮食品・加工食品【コレってまだ食べられる！？】	P70 ~ 71
7	13	※ 前期期末考査（家庭科実施）		
	14	食物	16. 様々な食品・食品の保存【コレってまだ食べられる！？】	P74 ~ 75
	15		16. 食中毒・食品添加物【コレってまだ食べられる！？】	P76 ~ 77
8	夏 季 休 業			
	16	食物	17. 献立作成【茶色くなっちゃった！！】	P76 ~ 83
9	17	食物	19. これからの食生活【ミウちゃんに叱られる！？】	P106 ~ 109
	18	消費生活	1. 成年年齢引き下げ 2. 契約と消費者トラブル	P 4 ~ 11
	19		3. 消費者の権利と責任 4. 消費者の意思決定	P12 ~ 17
	20		5. 生活費と家計 6. 将来の経済計画 7. これからの消費生活	P18 ~ 29
10	21	食物	調理実習2の計画	
	22	被服	※調理実習2／被服実習（刺し子）A	
	23		※調理実習2／被服実習（刺し子）B	
	24		被服実習（刺し子）完成	
11	25	青年期	33. 青年期に生きる【友達に愛を告白された！】	P184 ~ 189
	26	食物	調理実習3の計画	
	27		※調理実習3／視聴覚教材A	
	28	後期中間考査		
	29	食物	※調理実習3／視聴覚教材B	
12	30	青年期	34. 現代の家族【自分にとって家族とは！？】	P190 ~ 193
	31	家族	35. 家庭生活の成り立ち【家事】 36. 家族と法律【相続】	P194 ~ 203
	32	共生	32. ともに生き、支え合う社会【トイレに行きたいのに！！】	P176 ~ 181
冬 季 休 業				
1	33	保育	25. 子どもの発達【ホントに大きくなるのかな…？】	P134 ~ 141
	34		26. 子どもの遊び【ウワ————ン！！】	P142 ~ 145
	35		27. 子どもの生活・大人の役割【子どもの名前はなににする？】	P146 ~ 151
	36		28. 子育ての環境・子育て支援【隣の子どもが泣いている！？】	P152 ~ 157
2	37	高齢期	29. 高齢期を理解する【私が高齢者？！】	P160 ~ 163
	38		30. 高齢者の生活を支える仕組み【えっ？聞いてないよ？】	P164 ~ 169
	39		31. 地域で支える高齢社会【いつもと変わらなかったよ？】	P170 ~ 173
3	40	※ 学年末考査（家庭科実施）		
	41	住生活	20. 人と住まい 21. ライフスタイルと住まい	P114 ~ 119
	42		22. 安全な住まい 23. 衛生的な住まい 24. これからの住生活	P120 ~ 131

商業	原価計算	4単位
2学年	人間経済コース	

教科書	原価計算			(TAC出版)
副教材	簿記実務検定模擬問題集 1級原価計算			(実教出版)
評価方法	定期考査	ユニットテスト	検定試験	授業態度等

1. 学習のねらい

原価計算は製造業に適用されるものであることを理解するとともに、各種の原価計算の手続きにおいて、「誰が」「いつ」「何をするか」を容易かつ的確に理解できるよう、フローチャート化または箇条書きにして示すとともに、電子黒板等を有効に利用し、より一層の習得を図ります。

「簿記」、「会計」の延長線上にある科目として位置づけられるものであるため、総勘定元帳を中心とする会計帳簿への記帳手続きを行う能力を育てます。

2. 授業の進め方

基礎学習が一巡したのち、次のやや高度な学習サイクル、すなわち応用的なものへと進めます。そのため、問題演習を多く実践し、実力を身につけることが必要となります。教科書や練習問題を電子黒板に写し、解き方を解説します。単元や解説状況に応じたユニットテストを細かく実施します。

3. 学習の留意事項

授業は、教科書を使い説明、練習、ユニットテストの順で進めます。教科書・問題集の説明については、電子黒板等を利用して解説をします。復習は、問題集を家庭学習しましょう。

4. 評価基準

各学期での定期考査、ユニットテスト、検定試験、授業態度などを勘案し、総合的に判定します。

- ・全商簿記検定仕訳問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定総合原価計算問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定計算・語句問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定勘定記入・原価計算表の作成（原価計算）の習得状況

評価分野

- 費目計算の理解。
- 個別原価計算の理解。
- 部門別原価計算の理解。
- 総合原価計算の理解。（平均法、先入先出法）
- 総合原価計算の理解-1。（工程別、組別、等級別総合原価計算）
- 総合原価計算の理解-2。（仕損、減損の処理）
- 工業簿記における財務諸表の理解。
- 本社工場会計の理解。
- 標準原価計算の理解。
- 直接・全部原価計算の理解。

5. その他

検定試験

全商簿記検定1級 6・1月

日商簿記検定2級 6・11・2月

※受験級は進捗状況や習熟度によって変わります。

<年間計画> 2年用

月	週	授業内容
4	1	原価と原価計算
	2	原価計算のあらまし
	3	工業簿記の勘定連絡
5	4	材料費
	5	労務費
	6	経費
	7	前期中間考査
6	8	個別原価計算
	9	部門別個別原価計算
	10	総合原価計算
	11	月末仕掛品の評価
7	12	工程別総合原価計算
	13	前期期末考査
	14	減損・仕損じの発生
8	15	製品の完成と販売
	夏季休業	
9	16	決算と本社工場間の取引
	17	標準原価計算 (その1)
	18	標準原価計算 (その2)
	19	直接原価計算 (その1)
10	20	直接原価計算 (その2)
	21	日商簿記検定対策
	22	日商簿記検定対策
	23	日商簿記検定対策
11	24	日商簿記検定対策
	25	日商簿記検定対策
	26	日商簿記検定対策
	27	日商簿記検定対策
12	28	後期中間考査
	29	全商原価計算 1級検定対策
	30	全商原価計算 1級検定対策
	31	全商原価計算 1級検定対策
1	32	全商原価計算 1級検定対策
	冬季休業	
	33	全商原価計算 1級検定対策
	34	全商原価計算 1級検定対策
2	35	全商原価計算 1級検定対策
	36	日商簿記検定対策
	37	日商簿記検定対策
3	38	日商簿記検定対策
	39	日商簿記検定対策
3	40	学年末考査
	41	日商簿記検定対策
	42	日商簿記検定対策

商業	課題研究	4単位
2学年	人間経済コース	

教科書	なし		
副教材	なし		
評価	資格取得状況	授業態度等	提出物

1. 学習のねらい

1年生で学んできたビジネスの基礎的・基本的な学習の上に立って、進路実現に向けて資格の取得を目標とします。資格を取得する過程で、生徒自ら検定の目標を設定して課題とその解決を図ります。また、その課題学習を通して、理解を深め応用性のある知識や技術及び経験を身に付け、それを将来に活用することのできる能力を養います。

2. 授業の進め方

期間を決めて受験検定に向けた学習を行います。そのため年間を通して同じ内容を学ぶものではありません。

検定の受験級については、各自のレベルに合わせて目標を設定し、目標にあわせて自主的に学習します。

3. 学習の留意事項

資格取得の取り組みについて、目標を立てさせ、個々の生徒の特性に応じた種類やレベル、日程に合わせた効率の良い学習方法を指導します。資格については商業関係に留まらず、漢字検定等日々の生活に必要な資格についても目標を持たせて指導します。

4. 評価基準

- ・全商情報処理検定基礎問題（2・3級）の習得状況
- ・全商情報処理検定応用問題（2・3級）の習得状況
- ・全商簿記検定仕訳問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定総合原価計算問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定計算・語句問題（原価計算）の習得状況
- ・全商簿記検定勘定記入・原価計算表の作成（原価計算）の習得状況
- ・全商ビジネス文書検定速度問題（1～3級）の習得状況
- ・全商ビジネス文書検定文書問題（1～3級）の習得状況
- ・全商ビジネス文書検定筆記問題（1～3級）の習得状況
- ・ビジネス計算実務検定・商業経済検定問題の習得状況

5. その他

検定試験

6月、1月	全商簿記検定
6月、11月	ビジネス計算実務検定
6・7月、11月	全商ビジネス文書検定
9月、12月	全商英語検定
9月、1月	全商情報処理検定
2月	全商商業経済検定

※受験級は進捗状況や習熟度によって変わります。

<年間計画> 2年用

月	週	授業内容
4	1	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	2	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	3	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
5	4	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	5	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	6	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	7	前期中間考査
6	8	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	9	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	10	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	11	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
7	12	ビジネス計算実務検定検定対策 全商簿記検定対策
	13	前期期末考査
	14	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
8	15	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
	夏季休業	
	16	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
	17	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
9	18	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
	19	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
	20	全商ビジネス文書検定対策 全商情報処理検定対策
10	21	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	22	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	23	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	24	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
11	25	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	26	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	27	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	28	後期中間考査
12	29	全商ビジネス文書検定対策 ビジネス計算実務検定検定対策
	30	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
	31	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
	32	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
1	冬季休業	
	33	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
	34	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
	35	全商情報処理検定対策 全商簿記検定対策
2	36	全商簿記検定対策 全商商業経済検定対策
	37	全商商業経済検定対策
	38	全商商業経済検定対策
3	39	全商商業経済検定対策
	40	学年末考査
	41	全商ビジネス文書検定対策
	42	全商ビジネス文書検定対策

商業	財務会計 I	4 単位
2 学年	人間経済コース	

教科書	財務会計 I			(TAC 出版)
副教材	簿記実務検定模擬試験問題集 1 級会計			(実教出版)
評価	定期考査	ユニットテスト	検定試験	授業態度等

1. 学習のねらい

財務諸表の作成に関する知識や技術を習得し、財務会計の意義や制度について理解できる力を養います。

財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育成します。

2. 授業の進め方

全員が全商簿記検定試験を受験し、検定試験合格を目指します。そのため、教科書と副教材、プリントなどを活用して内容を理解した後に、問題演習を繰り返し実践し、実力を身に付けることが必要となります。

3. 学習の留意事項

教科書を通して内容を理解した後で、ユニットテスト・検定問題の答案練習を繰り返し実施します。

4. 評価基準

各学期での定期考査、ユニットテスト、検定試験、授業態度などを勘案し、総合的に判定します。

- ・全商簿記検定仕訳問題（会計）の習得状況
- ・全商簿記検定財務分析・連結会計問題（会計）の習得状況
- ・全商簿記検定語句問題（会計）の習得状況
- ・全商簿記検定報告式財務諸表の作成（会計）の習得状況

評価分野

- 資産の意味・分類・評価の理解。
- 負債の意味・分類・評価の理解。
- 純資産の意味・分類・評価の理解。
- 売上高・売上原価・販売費及び一般管理費の理解。
- 営業外収益・営業外費用、特別利益・特別損失の理解。
- 財務諸表作成の理解。
- 連結財務諸表のあらまし・連結財務諸表の作成の理解。

5. その他

検定試験

日商簿記検定 2 級 6、11、2 月

全商簿記検定 1 級 6、1 月

<年間計画> 2年用

月	週	
4	1	企業会計と会計公準
	2	企業会計制度
	3	貸借対照表の概要
5	4	資産の分類と評価
	5	負債の分類
	6	現金預金
	7	前期中間考査
6	8	金銭債権
	9	電子記録債権・電子記録債務
	10	棚卸資産
	11	有価証券
7	12	有形固定資産
	13	前期期末考査
	14	リース取引
8	15	無形固定資産
	夏季休業	
9	16	研究開発費とソフトウェア
	17	引当金
	18	純資産（その1）
	19	純資産（その2）
10	20	純資産（その3）
	21	貸借対照表の作成方法
	22	損益計算の概要
	23	損益計算書の基準
11	24	役務の提供と工事契約
	25	掛代金の割引
	26	外貨建取引
	27	法人税と税効果会計
	28	後期中間考査
12	29	損益計算書の作成方法
	30	その他の財務諸表
	31	ディスクロージャー制度
	32	財務諸表分析
1	冬季休業	
	33	連結財務諸表
	34	全商簿記検定対策
	35	全商簿記検定対策
2	36	日商簿記検定対策
	37	日商簿記検定対策
	38	日商簿記検定対策
3	39	日商簿記検定対策
	40	学年末考査
	41	日商簿記検定対策
	42	日商簿記検定対策

商 業	簿 記	4 単位
2 学年	人間経済コース	

教科書	簿 記 (昨年度購入済み)		(TAC 出版)
副教材	簿記検定試験 3 級対策プリント		教科担当者作成
評 価	定期考査 (ユニットテスト)	検定試験	授業態度等

1. 学習のねらい

この授業のねらいは、仕訳、勘定記入、決算などの簿記一連の基本的仕組みを理解することです。

企業は簿記の内容をベースに、財務諸表という形で財政状態と経営成績を数値化します。そのため、これらを読み書きする能力は必要不可欠です。

2. 授業の進め方

教科書を基本に説明し、練習問題を多く取り入れ、理解の促進を図ります。インプットとアウトプットをバランスよく行うことで深い理解を得ることができます。

3. 学習の留意事項

全員が各種簿記検定試験を受験し、検定試験合格を目指します。必要に応じて、朝や放課後などにゼミを行うこともあります。

4. 評価基準

三観点 (知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度) で評価します。各学期での定期試験を基本に、検定試験の結果や授業態度などを勘案し、総合的に判定します。

5. その他

検定試験

全商簿記検定 1 月

日商簿記検定 6 月、11 月、2 月

※受験級は進度状況や習熟度によって変化します。

<年間計画> 2年用

月	週	授 業 内 容
4	1	簿記の基礎
	2	日常の手続き
	3	商品売買Ⅰ
5	4	商品売買Ⅱ
	5	現金・預金
	6	小口現金
	7	前期中間考査
6	8	クレジット売掛金
	9	手形取引
	10	電子記録債権・債務
	11	さまざまな帳簿の関係
7	12	その他の取引Ⅰ
	13	前期期末考査
	14	その他の取引Ⅱ
8	15	その他の取引Ⅲ
		夏季休業
9	16	訂正仕訳
	17	試算表
	18	決算
	19	決算整理Ⅰ
10	20	決算整理Ⅱ
	21	決算整理Ⅲ
	22	決算整理Ⅳ
	23	決算整理Ⅴ
11	24	決算整理Ⅵ
	25	決算整理後残高試算表
	26	精算表
	27	英米式決算
12	28	後期中間考査
	29	損益計算書と貸借対照表
	30	株式の発行
1	31	剰余金の配当と処分
	32	税金
		冬季休業
1	33	証ひょうと伝票
	34	日商簿記検定試験対策
	35	日商簿記検定試験対策
	36	日商簿記検定試験対策
2	37	日商簿記検定試験対策
	38	日商簿記検定試験対策
	39	日商簿記検定試験対策
3	40	学年末考査
	41	日商簿記検定試験対策
	42	日商簿記検定試験対策

商業	ソフトウェア活用	3単位
2学年	人間経済コース	

教科書	ソフトウェア活用			(実教出版)
副教材	全商情報処理検定模擬試験問題集ビジネス情報2級			(実教出版)
	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集1・2級			
評価	定期考査	検定試験	ユニットテスト	授業態度等

1. 学習のねらい

情報技術が進歩する社会においては、ソフトウェアの効果的な活用が企業の社会的活動の改善に大きな影響を及ぼします。授業では、ソフトウェアを活用して有用な情報を導き出す場面を想定し、表計算ソフトウェア、データベースソフトウェアなどを効果的に学びます。さらに、将来、社会人として、いろいろな部門の業種・業務に従事するものにとって、必要な情報技術の活用に関する知識も習得します。

2. 授業の進め方

全員、情報処理検定試験とビジネス文書検定試験を受験するので、検定試験合格を目標とします。教科書と副教材、プリントなどを活用します。

講義だけでなく実習によって、講義内容を入力し、処理結果によって再確認をします。

3. 学習の留意事項

理論に偏ることなく具体的・実践的な実習体験を通して、生徒がコンピュータを用いて、主体的に情報を処理し、作成したプログラムや情報を利用できるようにします。また、資格を取得することにより、就職や進学が有利になります。

4. 評価基準

- ・全商情報処理検定基礎・応用問題2級の習得状況
 - ・全商ビジネス文書検定問題・筆記問題（1・2級）の習得状況
 - ・エクセル・ワード実技問題において自己の知識を生かして主体的に問題取り組む姿勢
 - ・実技および筆記問題の小テスト（ユニットテスト）の状況
 - ・全商情報処理検定2級・全商ビジネス文書検定（1・2級）における合否
- 各学期での定期試験や上記の評価点を基準に判定します。

5. その他

検定試験

全商ビジネス文書検定1・2級 7月・11月

全商情報処理検定2級 1月

※受験級は進捗状況や習熟度によって変わります。

<年間計画> 2年用

月	週	
4	1	ビジネスにおけるソフトウェアの活用
	2	ビジネスにおけるソフトウェアの進化
	3	情報ネットワークの導入と運用
5	4	情報資産の保護
	5	表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析
	6	表計算ソフトウェアを用いたオペレーション・リサーチ
	7	前期中間考査
6	8	手続きの自動化
	9	全商ビジネス検定試験対策
	10	全商ビジネス検定試験対策
	11	全商ビジネス検定試験対策
7	12	全商ビジネス検定試験対策
	13	前期期末考査
	14	ビジネスとデータベース
8	15	データベースの作成と操作
		夏季休業
9	16	手続きの自動化
	17	データベースの構造
	18	SQLの操作
	19	グループウェアの活用
10	20	販売管理ソフトウェアの活用
	21	給与計算ソフトウェアの活用
	22	システム開発の基礎
	23	アルゴリズムの基礎
11	24	情報システムの開発演習
	25	全商ビジネス検定試験対策
	26	全商ビジネス検定試験対策
	27	後期中間考査
12	28	全商ビジネス検定試験対策
	29	全商ビジネス検定試験対策
	30	システム開発の基礎
	31	アルゴリズムの基礎
1	32	情報システムの開発演習
		冬季休業
	33	全商情報処理検定試験 2級対策
	34	全商情報処理検定試験 2級対策
2	35	全商情報処理検定試験 2級対策
	36	全商情報処理検定試験 2級対策
	37	販売管理ソフトウェアの活用
3	38	給与計算ソフトウェアの活用
	39	システム開発の基礎
3	40	学年末考査
	41	アルゴリズムの基礎
	42	情報システムの開発演習